

古代の山城 鬼ノ城で鍛冶炉跡6基が出土、大規模にこの山城で鉄器生産か

7世紀後半 663年 朝鮮半島白村江の戦いで敗北から、唐・新羅の連合軍の本土侵攻する備えか

岡山県古代吉備文化センター ホームページ ほかより <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kinojou-top.html>

2009. 12. 26. by Mutsu Nakanishi

桃太郎説話や「温羅伝説」の舞台として、古くから親しまれてきた鬼ノ城。

その築城目的は、663年の白村江の戦いにおける敗北から、唐・新羅の連合軍が本土に侵攻するのではないかと危機感を抱いた当時の政権が、西日本各地に築かせた古代山城の一つであるという説がよく知られている。しかし『日本書紀』などには一切登場せず、築かれた時期についても様々な説があり、未だ多くの謎に包まれた遺跡である。



昭和53（1978）年の鬼ノ城学術調査団による調査、さらに平成6（1994）年からの総社市教育委員会による発掘調査が行われ、角楼（かくろう）や城門など、城の外郭（がいかく＝外側）の壮大な姿が次々と明らかになりました。

城内については、平成11（1999）年に岡山県古代吉備文化センターが確認調査を行い、礎石建物群の様相や鍛冶関連の遺構の存在が明らかになりました。今回は、前回の確認調査で得られた成果をもとに、より広い調査区を設定し、平成18（2006）年度から7か年計画で調査に取り組んでいる。

■ 調査位置図（H21年度）



総社・鬼ノ城に鍛冶工房ゾーン確認 遺構2カ所目 鉄滓など出土

古代山城・鬼ノ城（国指定史跡、総社市奥坂）で岡山県古代吉備文化財センターが進めている発掘調査で1日までに、同城内2カ所目となる鍛冶（かじ）工房の跡が確認された。鉄の不純物・鉄滓（てっさい）が大量に出土、炉壁や鉄器の一部も見つかっており、鉄器の生産・補修が行われていたとみられる。以前に見つかった鍛冶工房跡と近く、一帯に工房ゾーンが広がっていた裏付けになると注目を集めている。

鍛冶工房跡が見つかったのは、東門跡から西に約180メートル入った尾根上で、直径1・5メートルの範囲から関連遺物や熱を受けて焼けた岩が集中して出土した。炉壁は幅11センチ、高さ9センチの粘土質で熱を受け表面が黒く溶けている。鉄器片は5ミリ四方の板状で器種は不明。鉄滓は約200点で、大きい物は1辺10センチ以上ある。

古代山城に詳しい亀田修一岡山理科大教授（考古学）は「全国の古代山城で鍛冶工房が確認されているのは鬼ノ城だけで、機能を把握する重要な手掛かりとなる。何を作っていたか知るため今後は製品の出土が期待される」と話している。

鬼ノ城で鍛冶炉跡6基が出土、大規模に鉄器生産か

全国の古代山城で唯一、鉄器にかかわる鍛冶（かじ）工房跡が確認されている鬼ノ城（国史跡、総社市奥坂）の発掘調査で28日までに、新たに計6基の鍛冶炉跡が出土した。当時の官営工房に通じる技術も確認され、必要とする鉄器を城内で供給できる大規模な生産体制を持っていた可能性が高まった。

岡山県古代吉備文化財センターが7月から、東門跡近くの谷部を発掘調査。9月初旬には鍛冶の際に出る鉄の不純物・鉄滓（てっさい）などが見つかり、谷部一帯に鍛冶工房ゾーンが広がるとみられていた。

鍛冶炉跡は、3カ所の調査区（計1350平方メートル）すべてから出土。地面に穴を掘り、内側に粘土を張った構造で、最大で直径30センチ、深さ8センチ。高温を受けて炉壁は赤く焼け締まり、一部には鉄滓が付着していた。伴った須恵器（すえき）からいずれも7世紀後半とみられる。



鬼ノ城で新たに見つかった鍛冶炉跡



【鬼ノ城 鍛冶工房跡で発掘された鍛冶遺物の展示】

甦る!古代吉備の国
謎の鬼ノ城

調査成果速報


岡山県古代吉備文化財センター
 では、平成18年度から総社市奥城
 にある鬼ノ城の調査を行っています。
 今年度は城内の南東部で調査を行い、
 古代山城としては初となる計11基の鍛
 冶炉が発見されました。



鍛冶炉と鉄滓・羽口

今回の調査で見つかった鍛冶炉の
 周りからは、鍛冶作業に伴う鉄滓や鞆
 の先に付ける羽口が見つっています。
 また、鉄を鍛えた際に飛び散った鉄の
 破片もたくさん出土しました。

鉄滓とは鉄を熱して溶かし加工する
 際に出る不純物のことです。調査では
 大きな鉄滓がたくさん出土したことか
 ら、簡単な修理作業だけではなく、釘
 や楔、武器で
 ある鐵の製作
 なども行われ
 ていたことが
 考えられます。



鍛冶作業の想像図



鉄滓 鍛冶炉



羽口



発掘の様子



羽口の残る鍛冶炉

吉備古代文化財センターに展示されていた鬼ノ城 鍛冶工房跡で発掘された遺物 2010.1.15.

岡山県立吉備古代文化財センターにて 2010.1.15.



2009年10月1日(木) 調査のきっかけ

「ここを掘ったら出る、というのがどうして分かるの？」私たちがよく受ける質問です。

9月下旬から新たに発掘を開始したこの地点は、地表に落ちていた1点の遺物が調査のきっかけになりました。

これは、鍛冶炉の火力を上げるために風を送る吹子(ふいご)という装置の一部で、送風口にあたる部分です。前の調査区に引き続き、ここでも鍛冶工房が出てくるのか、それともハズレなのか、掘ってみたいと分かりません。(M)



2009年10月9日(金) 無数の鉄滓

鉄滓というのは、鍛冶作業を行った時にできる鉄の不純物のかたまり。

調査を始めて間もなく、無数の鉄滓が出土し始めました。

写真の白い札はその位置を示しています。

この付近にも鍛冶工房があったことは確実なようです。(M)



2009年10月14日(水) 突然の雨に・・・

現在の調査地点は、城内でも東端部にあり、駐車場から歩いて約30分の距離。

雨が降り出したからといって雨の中を下山するのも大変です。

急ぎ現場にブルーシートを張り、突然の雨と雷をやり過ごすことに。

日没も近づき、暗い山の中で途方にくれる面々でした。(M)



2009年10月21日(水) 待望の鍛冶炉！

吹子(ふいご)の一部や鉄滓がたくさん出土し、ここに鍛冶工房があったであろう状況証拠は出揃っていましたが、ついに、待望の鍛冶炉を発見！

直径約30cm、お椀形に地面を掘りくぼめた炉で、真っ赤に焼けています。

まさにこの場所で鉄を加熱し、鉄製品を作っていたのです。調査参加者一同、感激の瞬間でした。(M)



2009年10月29日(木) またまた鍛冶炉！

前回紹介した鍛冶炉から数m離れた所で、2つ目の鍛冶炉を発見しました。

少なくとも2つの鍛冶炉を備え、鉄滓などの量も多く、どうやら想像していたよりも本格的な鍛冶工房のようです。

わずかに1点の遺物を拾ったところからスタートした調査地点でしたが、予想以上の成果が上がりました。(M)



2009年11月6日(金) 今度は何が？

調査期間もあと2か月を切り、いよいよ今年最後の調査区で発掘作業が始まりました。ここでは10年前の確認調査で「竪穴遺構」が見つかり、鉄滓やふいご羽口などが出土していて、鉄器を製作した鍛冶場だったと考えられています。

今回の調査は、この竪穴周辺を精査し、鍛冶作業の様子を解明するのが目的です。まだ旧トレンチを再掘削している段階ですが、今度はどんな発見が飛び出すか楽しみです。(O)



2009年11月12日(木) 中学生の職場体験

今日は、岡山市の吉備中学校の生徒さん3人が職場体験にやってきました。もちろん発掘現場に立つのは初めての子ばかり。掘り道具を手に、おっかなびっくりで土に立ち向かいます。

彼らが担当したのは、1日かけて調査区の片隅を掘り下げる作業です。遺物を見落とさないように慎重に掘り進めましたが、結果的には数点の土器片が出てきただけでちょっと物足りなかったかも知れません。でも実際の発掘調査、ひいては仕事というものは、こういう地道な作業の連続だということを知るにはいい機会だったのではないのでしょうか。(O)



2009年11月24日(火) さらに鍛冶炉!

今回の現場でも、たくさんの鉄滓が地中から次々に湧きだしてきました。それらを取り上げながら慎重に掘り進めると、またしても硬く焼け締まった粘土の塊が姿を現しました。

直径30cmほどの浅い椀状で、やはり鍛冶炉に間違いありません。しかも今度は、炉の内面に鉄滓がべったりとこびりついているではありませんか!まさに鍛冶作業の様子を生々しく伝える貴重な資料です。鬼ノ城の東端にあたるこの一帯は当時の鍛冶工房ゾーン、きっとあちこちで煙が上がり、鉄を鍛える槌音が高らかに鳴り響いていたことでしょう。(O)



2009年12月25日(木) 12月25日 金曜日 3年 4

歴ナレ 旅する日本史

邪馬台国近づいた

09年 考古学を振り返る

2009年の考古学は、縄文時代から古墳時代まで、幅広い分野で重要な発見が続いた。特に、邪馬台国の存在をめぐっては、多くの研究者が新たな見解を示している。また、縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。この記事では、2009年の考古学の主要な発見と、その意義について紹介する。

12月 邪馬台国の存在をめぐって、多くの研究者が新たな見解を示している。また、縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

11月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

10月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

9月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

8月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

7月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

6月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

5月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

4月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

3月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

2月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

1月 縄文時代の生活様式や、古墳時代の社会構造についても、多くの発見が報告された。

2009.12.25. 朝日新聞 夕刊より

